

理科(物理) 名古屋大学 工学部、理学部、農学部、医学部、情報学部
(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期) 1 / 1

<全体分析>

試験時間 情報(自然) 1科目 75分
 情報(コン)・医・理・工・農学部 2科目で 150分

解答形式

記述・空所補充・選択

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

典型的な問題にとどまらず、その場で判断・思考する問題が出題されている。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

複雑な数値計算が多く出題された。また、数年ぶりに描図問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式 選択式	放物運動 2球の衝突	物理	放物運動と2球の衝突。等しい質量の弾性衝突やモンキーハンティングの知識があると大幅な時間短縮になる。設問(7)以外は典型題である。	やや易
II	問形式 選択式 描図	電磁場中の荷 電粒子の運動	物理	電磁場中での荷電粒子の等速円運動。誘導にしたがって順番に解いていこう。電場による等速円運動を扱っているのが目新しい。数値計算は問題IIIに比べて計算しやすい。	標準
III	問形式 選択式 空所補充	気体の状態変 化	物理 基礎・ 物理	前半は伸縮する薄膜で覆われた気球内の定圧変化の問題。文字指定に気を配る必要がある。後半は水蒸気を含む気体の断熱変化の問題。数値計算が煩雑である。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず、標準的な問題を確実に解けるようにしなければならない。解法を暗記するのではなく、設定や状況をしっかり把握して、適切な法則・公式を正しく適用する練習を重ねよう。そのうえで、やや複雑な設定の問題にも取り組んでいこう。見慣れない設定や状況に出会っても、丁寧に問題を読んで考えるようにしていこう。

要領よく計算するように心がけて演習をするとよい。計算ミスなどが次の誤りにつながるので、正確に計算できるようにしよう。また、今年は数値計算の問題が多数出題されたので、数値計算にも慣れておこう。

試験が近づいてきたら、問題の取舍選択も含め、時間内にできるだけ得点できるように練習をしよう。物理的な考え方、状況の捉え方などがしっかりと身につくには時間がかかるので、早くから取り組むことが大切である。